

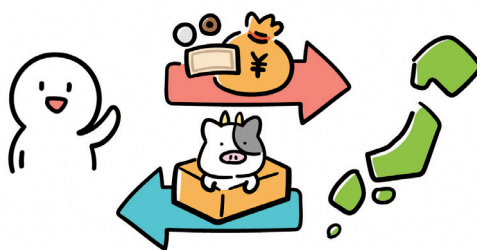
年度の受付件数と寄附金額の予定は。

〔A〕 令和6年度のふるさと納税については、11月末現在で寄附件数1,321件、寄附金額46,371千円となっている。令和7年度の寄附件数、寄附金額の予定は、ふるさと納税の件数、金額とも12月が年間全体の約4割を占めるため、本年12月の状況やふるさと納税全体の伸び率、PR等による効果等を検証して、今後、決定していく。

〈執行部回答後の議員意見〉

ふるさと納税が少なくなっているが、12月が勝負の月なのでSNSで市民から広めてもらい、もう少しやれることがあると思われるため、これらを検討材料にして頑張りたい。

ふるさと納税



〔Q〕 救急活動事業費、除細動器はどのような時に活用するものか。また、保守点検期間は。附属品CO₂センサーの役割は。

〔A〕 AEDと同じく心肺停止状態の傷病者に使用する。また、この除細動器は、電気ショックだけではなく、心電図波形の測定や、窒息などが原因で心肺停止となった傷病者に医師の指示により気管にチューブを挿入し、空気の流れを確保する気管挿管を実施したときに、二酸化炭素濃度を測定することに活用する。

保守点検期間は、医療機器はいつ、いかなるときも正確な数値により必要な医療行為を決定するため、購入から4年目、7年目で実施しており、10年目で救急車の更新と合わせて更新している。附属品のCO₂センサーの役割は、気管挿管を実施したときに、チューブが気管に正確に挿入できているかを、肺から排出される二酸化炭素濃度を数値とグラフによりリアルタイムで確認するためのものである。CO₂センサーは、医療事故を防ぐため、静岡県のメディカルコントロール協議会で決められた救急活動プロトコルにおいても最重要資機材とされている。

〈執行部回答後の議員意見〉

除細動器とCO₂センサーについては、消防署員が点検をして、その中でセンサー異常や機器の異状を確認するということで、点検に出してはじめる。

て分かるのではなく、日々使える状態になっているということがよく分かった。

〔Q〕 障害児通所支援費、放課後等デイサービス費増加数が184人から249・4人と大幅に増えているが、要因は。

〔A〕 放課後等デイサービスの利用対象者である発達に課題のある子どもが増えてきていること、療育の場としての放課後等デイサービスの認識が広がったこと、また専門的な療育を受けることで、成人になってからの課題を減らし、生活能力の向上を図るため、早期の療育を希望する保護者が増えたことなどが、大幅増の要因として考えられる。近年は、学校関係者からの相談や、軽度の発達障害であっても将来を見据え、療育を希望する保護者が増えていることから、今後も利用者数や利用回数が増加するものと見込